

小学五年

国語

解答と解説

1

問一		
熱	な	自
を	い	分
う	と	の
ば	い	せ
い	う	い
っ	恐	で
づ	怖	母
け	感	親
て	が	を
い	千	失
た	波	う
か	の	か
ら	体	も
。	か	し
	ら	れ

21
22
23
24

問二	ウ
問三	ヒ
ナ	を
守	る
問四	エ
問五	イ
問六	ウ

25

26

27

28

29

問七	⑦
イ	⑨
オ	問八
ア	問九
イ	問十
エ	問十一
イ	問十二
ウ	

30

31

32

33

34

35

36

2

問一	①
イ	③
エ	⑩
ウ	問二
エ	

37

38

39

40

問三	A
一	B
体	無
化	意
識	識
的	

(完答)

41

		5		4		3														
⑥	保留	64	①	燃料	59	①	工	54	①	手	49	問十	科学技	問七	イ ↓ ウ ↓ ア ↓ エ	(完答)	問四	A	42	
⑦	有効	65	②	法則	60	②	ケ	55	②	車	50	ゝ	て	問八	イ	45	ー	との結	42	
⑧	養	66	③	平均	61	③	ア	56	③	赤	51	い	く	問九	エ	46	合体	問五	工	43
⑨	似	67	④	耕	62	④	イ	57	④	空	52	(完答)		48		47		問六	イ	44
⑩	拾	68	⑤	祖国	63	⑤	キ	58	⑤	図	53									

(配点)

①〔問一〕 8点、〔問七・十一〕 各2点、他各5点
②〔問一〕 各2点、他各5点
③④⑤ 各2点

計150点

【解説】

1 八束澄子の『明日につづくリズム』（ポプラ社）から出題し

ました。施設からひきとった大地をうまく受け止め切れない千波の葛藤（かつら）がえがかれていきます。千波の大地への相反する気持ちを、しぐさやセリフなどから読み取りましょう。

問一

B2 理由 推論

——線①の直後に「うちのせいじゃ」とあり、六行後に、「もし、お母さんになにかあったら……。恐怖感（きょうふかん）が、千波のからだから熱をうばいつづけた」とあります。この二点をつかって解答を作成します。ポイント①自分のせいでお母さんがいなくなってしまうかもしれない（死んでしまうかもしれない）、②恐怖感におそわれた（とてもこわくなった）というような表現が入っているからです。千波は、自分が原因を作ったせいではけんどを負った母親の容態を心配する中で、母親を失うかもしれない恐怖感におそわれ、「ふるえつづけていた」のでしょう。理由を聞かれていますので、文末は「〜から。」です。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問二

B1 具体化 比較

三時間以上もの手術を終えた母、のぶ子が最初に発した言葉が「ダイチハ？」であったことからわかるように、のぶ子は何よりも大地の安否（あんぴ）を気にかけていました。ですから、けががない大地の姿（すがた）を見れば、安心するはずで、この「力がぬけ

ていく」というのは、心配ではりつめていた気持ちがとけ、安心した気持ちの表れです。イ「かたくなな態度」、エ「心配してくるまでに育った大地」の部分が不適切です。この「力がぬけていく」は、アの「やけどのせいで体が思うように動かない」と解釈するよりも、文脈に従い、ウの「ほっとしている」と解釈する方が自然といえます。

と解釈する方が自然といえます。

問三

B1 理由 関係づけ

——線③「大地の服には焼けこげひとつできていなかった」のは、のぶ子（のぶこ）が守り抜いたからです。そのことは、——線①の五行前で「大地は無傷（むきず）だった：ほとんどやけどもしていなかった。ヒナを守る母鳥（はなどり）のようにのぶ子が胸（むね）にかかこんで、炎（ほのお）から大地を守ったのだ」と示されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四

B1 具体化 比較

——線④の直前に「口とは裏腹（うらはら）に、すつと背（せ）をむけ、しゃがみこんでいた」とあるように、千波は自然と大地を甘えさせてやっています。また、直後に「今日は大地にとつても：すぐこわかったにちがいない」とあることから、幼い大地の傷ついた心を気づかっていることがわかります。この二つの要素がある選択肢（せんたくし）はエです。ア「面倒ではあるが：役割を果たしてやろう」の部分が前述（ぜんじゆつ）の内容とあいません。イ大地が火事を起こしたことについて、千波はこの時点では強く意識していません。ウ「あわれに思えてきて」の部分が本文の内容とあいません。

問五

B1 具体化 比較

「ぬぐいきれない黒い疑い」とは、「火をつけたのは大地じゃないのか?」と疑い、大地に怒りをぶつけたくなるような気持ちのことを指します。身をゆだねてくる大地をおんぶする、その「背中をかくする」という表現から、大地を拒否する気持ちを読み取れます。この二つの内容を説明できている選択肢はイです。ア「家族が崩壊する…不安」、ウ「大地に対する罪悪感」、エ「のぶ子のことなんとも思っていない」の部分が本文から読み取れません。

問六

B1 具体化 比較

「たががはずれ」とは、それまで人や物事を抑えてきた縛りや制約がなくなり、急に気が緩んでしまったり、行動が制御できなくなったりするさまを表す言葉です。「たが」とは、桶や樽の外側にかぶせて、その形を保つための金属や竹の輪のことです。大地が火遊びをしたせいで、クーちゃんが命の危機にさらされていたこと、そして何時間もたった一匹で怖い思いをしていたことを思うと、大地を責めてはいけない、という理性がふきとんだのだと考えられます。

⑦のあとに、「残酷な気持ち」がわきあがり、言葉がとまらなくなった」とあります。

この「残酷な気持ち」とは、大地を責め立ててやりたい、追いつめてやりたいという気持ちのことでしょう。ですから答えは、ウです。ア「自分を責める気持ち」、イ「きちんと教えてやらなければ」「判断して」、エ「大地が繰り返し」「決意して」などの言葉が本文の内容とあいません。

問七

B1 関係づけ 比較

⑦「それまで優しく甘えさせてくれていた千波に突然責め立てられ、大地は動揺したことでしょう。」「視線が泳ぐ」という表現もあるように、動揺しているとき、視線はあちこちをさまよいます。ですから、ここには「うろろろ」があてはまります。⑨の直後に「暴れながら」とあり、大地が「パニックになって泣き叫んで」いることを考えると、ここには「ばたばた」がふさわしいでしょう。

問八

B1 理由 比較

「くちびるが、ぶるぶるふるえている」という表現から、大地がはげしく動揺していることを読み取りましょう。ですから、イ「事の次第を話さなければならぬ」と決心、ウ「きちんと謝らなければならぬ」と思った」などの、冷静さが読み取れるような選択肢は不適切です。――線⑧の八行後に「ぼくは、もどされる。ぼくは、もどされるんじや」とあるように、大地は、千波に怒鳴られるような悪い子の自分は施設にもどされると思つて、動揺しながらも、必死でわざとではなかったことを説明して、どうにか許しを得ようとしているのでしょう。ですから、答えはアです。エ「どうすれば千波を落ち着かせられるかわからず」の部分が不適切です。

問九

B1 具体化 比較

――線⑩の直前に「大地のおそれが、からだ中から伝わってきた」とあります。大地が施設にもどされることを何よりもおそれていることや、そんな気持ちを抱えるまでになった大地のそれまでの苦しい境遇などが、抱きしめた大地の体から痛いほ

ど伝わってきて、それを「電流が走る」と表現しているのでしょう。ですから答えはイです。ア「大地が深く反省している」「後悔している」、エ「途方にくれている」などが本文の内容とあいません。ウは「大地のおそれ」に全く触れられていません。

問十 B1 理由 比較

三宅酒店のお嫁さんが登場するまで、非常に緊迫した状況でした。彼女が登場しなければ、千波はパニックを起こした大地をかかえて、自分を責め続けなければならなかったでしょう。ですから、答えはエです。ア「火事になった家で：怖かった」、イ「気まずい空気が流れていた」、ウ「大地への相反する気持ちの板ばさみになって」の部分が本文の内容とあいません。

問十一 A2 知識 関係づけ

たいへんな危機や苦しみのときに、思いがけない助けにあったときのうれしさのたとえである「地獄に仏」が正解です。

問十二 B1 関係づけ 比較

脱文挿入の問題では、本文中でそこにしか出てこない言葉を探すのがポイントです。ここでは「クーちゃんのおしりから背中にかけての毛が、こげて」の部分です。また、「見ると」とあるので、何か注意をうながされるようなことがあったと考えれば、答えは「ウ」だとわかります。

② 信原幸弘『「覚える」と「わかる」知の仕組みとその可能性』

(筑摩書房) から出題しました。具体的な説明をさしはさみながら、論が展開されています。筆者が読者に語りかけたり、問いかけたりする文が何か所かあることにより、これからのような話が展開されるのか想定しながら読み進めることができます。

問一 B1 関係づけ 比較

接続語の問題では、前後の文の関係や前後の段落の関係に注目します。①の直前には「機械の操作に慣れてくると」とくに意識しなくても：操作できる」とあり、直後に「義足に慣れると：無意識的に動くようになる」とあります。機械の具体例として義足を出しているの、「たとえば」が入ります。

③を含む段落では、人間が「生まれながらのサイボーグ」である、というのはどういうことが説明されています。サイボーグとは、「無意識的に操作できる機械と脳・身体が結合したもの」です。ですから「赤ちゃんはそれら(産着、揺りかご、家)と脳・身体が合体したものとして存在する」ということは、「赤ちゃんはそれらと脳・身体から構成されるサイボーグ」だ、といいかえられます。ですから、ここには「つまり」があてはまります。⑩の直前では「止めようがなくなる」とあり、直後では「いまなら、まだ間に合う」と逆のことを言っているの、ここには「しかし」が入ります。

問二 B1 具体化 比較

線④を含む一文に、「人間は皮膚で囲まれた生身の身体だけで生きていくことはできず、衣服・住居・道具で身体を拡

張^{ひき}して、厳しい環境^{かんきよう}を生きぬいた」とあります。赤ちゃんも、「自身の身体だけで生きていくことはできず」「産着、揺りかご、家」で身体を拡張^{くわくしやう}することで、存在^{そんざい}しているのです。これと同意の表現はエです。ア・イは「赤ちゃん」がどういう存在か説明していません。ウは「赤ちゃんは：弱い生き物」と結論付けており、本文の内容とあいません。

問三

B1 具体化 関係つけ

リード文には、「杖^{つゑ}をつかつて歩くことに慣れると：杖の先に直接地面の様子が感じられるようになる」とあり、杖が体の一部のようになっていることがわかります。ここで、一段落の義足の例を思い出しましょう。そこから、字数に合わせて言葉を書き抜きます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四

B1 置換

——線⑤を含む段落では、トランスヒューマンの「さまざまな形態^{けいぎ}」が挙げられています。次の段落が、「ここでは、サイボーグに焦点^{しやうてん}を合わせるために、AIとの結合体であるトランスヒューマンに注目しよう」という一文で始まっていることに注目です。ここから本文で主に扱^{つか}われているトランスヒューマンは、「AIとの結合体」であると考えられます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 具体化 比較

——線⑥の直前に「この」とあるので、直前の内容を確認^{かくにん}します。そこには、「人間を上回る知能をもったAIは、自分より劣^{せう}った人間をその支配下に置く：人間はAIにとって、『人間にとつてのゴリラ』と同じような劣^{せう}った存在になつてしまふ」とあります。この内容が示されているのは、エです。ア・イ・ウは「ゴリラ化問題」とは関係がありません。

問六

B1 関係つけ 比較

SF小説「猿の惑星^{わくせい}」では、知能の高い「サル」が人間を支配下に置きます。ゴリラ化問題は、知能の高いAIが人間を支配下に置くようになる、という問題です。ですから、惑星のサルにあたるものがAIということになります。

問七

B1 関係つけ 比較

文の並べ替えの問題です。指示語や、接続語、似たような表現に注目します。イ「この『ゴリラ化問題』」とあり、前段落の内容を受けていることがわかりますから、イが一文目です。エ「いずれにせよ」とあり、これが結論部分だとわかりますから、エが四文目です。アに「ひよつとしたら」とあり、ウの「AIより知能が劣^{せう}ることはない」よりも、一歩すすめた「AIよりすぐれた知能をもつ」可能性を提示していますから、ウのあとにアが来ます。よって、答えはイ↓ウ↓ア↓エです。

問八

B1 具体化 比較

——線⑪の前では、このままAIが進化していけば、「人間よりすぐれた知能をもつことは：人間には止めようがなくな

る」ということを問題にしていたので、この「ブレーキをかける」とは、AIのこれ以上の進化を止める、すなわち、「AIの開発を慎重かつ控え目に行う」ということです。これと同意の表現は、イです。アよりイの方が「ブレーキをかける」の部分を説明できています。ウ「開発をやめる」、エ「AIが『ゴリラ化』する」の部分が本文の内容とあいません。

問九 B1 関係つけ 比較

最初に出てくる⑫の直前の二文に注目します。そこには、「知的機械を発展させて、まだ見ぬ世界を体験したいという欲望は、押し殺そうとしてもしきれものではない：活気ある生を営むうえで不可欠」とあり、それを⑫「⑫」がなければ、人生は退屈だ」と言い換えています。⑫は「知的機械を：まだ見ぬ世界を体験したいという欲望」と同意のものだと言えますから、答えはエ「好奇心」です。

問十 B1 具体化 関係つけ

——線⑬を含む段落の末文に、「科学技術に正と負の両面がある以上、どこまで開発するかは、つねに問いかけていかなければならない」とあり、「どこまで開発するか」「つねに真剣に考慮して」いく必要があるのは、科学技術に正と負の両面があるからだとわかります。では筆者は科学技術とどのようにつきあうのがよいと考えているのでしょうか。それは最終段落に「私たちは好奇心という厄介な情動をうまく飼ひ馴らして、科学技術の恩恵と害のバランスを巧みに取っていく必要がある」と記されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とし

ます。

③ A1 知識

慣用句やことわざなどの問題です。どれも基本的な言葉です。意味が分からない言葉は辞書で調べておきましょう。

④ A2 知識

敬語の問題です。相手側の行為には尊敬語、自分側の行為には謙譲語を使います。その語の主語にあたるのが自分側の人間か、相手側の人間かをとらえましょう。

①「見る」のは社長ですから、尊敬語の「ごらんになる」を使います。

②「聞く」のは主語が明示されていませんが、文脈から「私」でしょうから、「聞く」の謙譲語である「うかがう」を使います。

③「食べる」のはBさんですから、「食べる」の尊敬語である「めしあがる」を使います。

④「説明」する」のは先生ですから、「する」の尊敬語である「なさる」を使います。

⑤「来る」のはおばさんですから、「来る」の尊敬語である「いらっしゃる」を使います。